

報道関係者各位

**“がんになっても仕事を続けたい！”**  
**医療・保健指導スタッフに聞いた**  
**「働く女性の乳がんと乳房再建に関するアンケート調査」**

日本医療・健康情報研究所

日本の乳がん患者は約20万人おり、女性特有のがんでは圧倒的に多くを占めます。しかも好発年齢は若年化が進み、20代後半から徐々に増え、40代がピークとなりますが、全世代的に高罹患率です。治療後は多くの方が仕事へ復帰し、妊娠・出産・育児を行うことも多く、一旦落ち着いても、悩みや不安をもち続ける人が大変多くおられます。

このたび、日本医療・健康情報研究所（代表：三角英海）は、乳がん治療と乳房再建に関する総合情報サイト「乳がん治療と乳房再建の情報ファイル」（<http://nyugan-file.jp/>）オープンに先駆けて、乳がん治療の認知と実態を探るべくアンケート調査を行いました。対象者は、看護師さんや保健師さんなど医療や保健指導スタッフ。皆さん乳がんの専門家ではありませんが、日頃から患者さんから様々な相談を受ける立場であり、医療情報に接する方たちですので、一般の人よりも意識は高いであろうことを想定しての質問構成としました。お仕事柄のご意見はもちろん、ひとりの働く女性としての意見も多く、大変興味深いアンケート結果となりました。

当サイトは、初めて診断された方から、仕事や生活、お金のこと、女性としてのQOLなど、広く深い情報提供をめざします。本調査結果に加え、乳がんに関する国内外のニュース、調査・統計データ、多数の専門職域のアップデートな情報、オピニオンリーダーの皆さんから寄稿いただく連載記事など、患者さんも医療者も参加できる場にしたいと考えております。今後は、SNSサービスをはじめ、様々な企画が控えておりますので、ぜひお楽しみに！

=====

### 【調査結果の概要】

主催：日本医療・健康情報研究所 アンケート対象者：医療・保健指導スタッフ、有効回答数：258名  
 アンケート回答方法：インターネット、アンケート実施期間：2016年2月16日～2月26日（10日間）

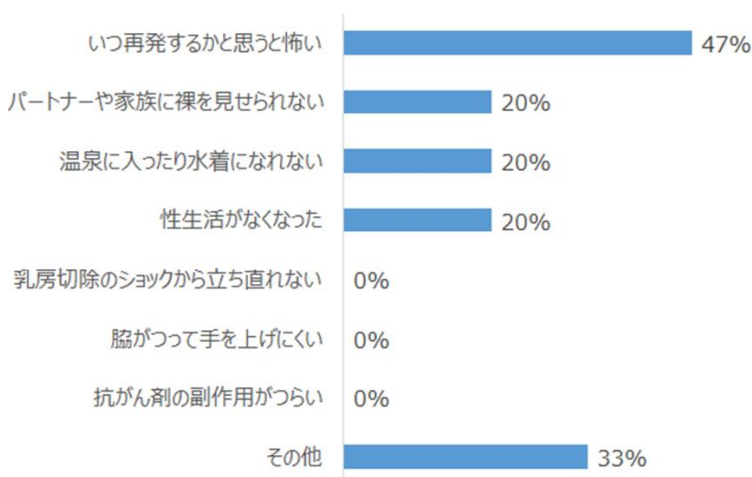
#### ■ 回答者の属性について

女性が97%、30代～50代の好発年齢が9割を占めました。職種は保健師と看護師が6割で、勤務先は企業で社員の健康管理を行う事業所が34%、病院22%、健保組合21%、都道府県・市区町村の健康増進担当者など様々です。仕事を持つ女性という面では、53%がお子さんのいる既婚者、29%が独身者に大きく分かれました。

#### 1、乳がんについて

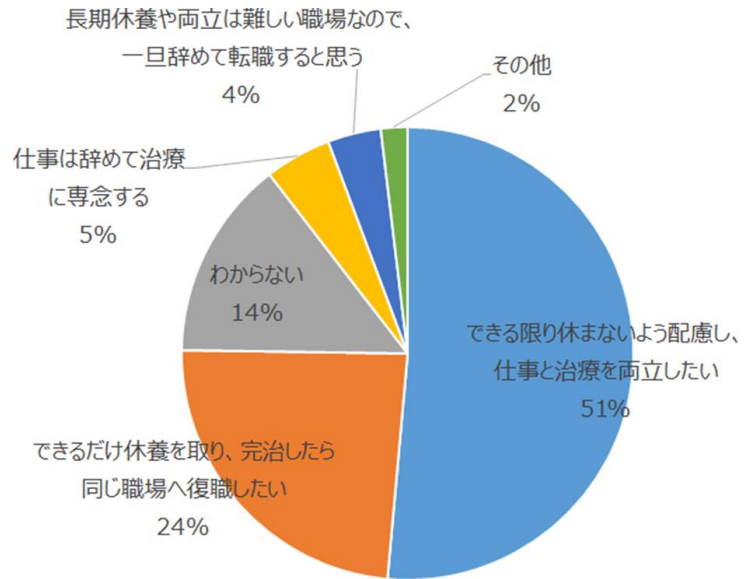
■ 様々な相談を受けることが多い職業柄、乳がんについての相談を受けたことは「ある」「何度もある」を合わせて51%おられました。相談内容は「治療について」が最も多く74%、次に多かったのが「治療と仕事の両立について」（45%）でした。

■ 乳がん経験者の悩みで最も多かったのは「いつ再発するかと思うと怖い」とする人が半数。また「パートナーや家族に裸を見せられない」、「温泉に入ったり、水着になれない」、といった見た目にコンプレックスを感じている人、「性生活がなくなった」という夫婦のコミュニケーション問題なども同数おられました。



## 2、がん治療と仕事について

■もし自分が乳がんになったら仕事はどうするか？に対し「できる限り休まないよう両立したい」が最も多く51%と、がんになっても仕事を続けたいという人が多数であることが明らかになりました。また、実際にがんを経験された人も「できる限り休まず両立した」が6割でした。



■“治療と仕事の両立”を希望する人が多いのは、復職の問題と切り離せません。回答者の多くは専門職ですから一般職と比べて職場環境は異なるかもしれませんが、それでも安心して職場復帰できるかどうか不安を感じている人が多いという現状が浮かび上がりました。一方で、実際は「それほど問題なかった」と経験者は答えました。

■治療後にどれくらいの方が復職しているか？

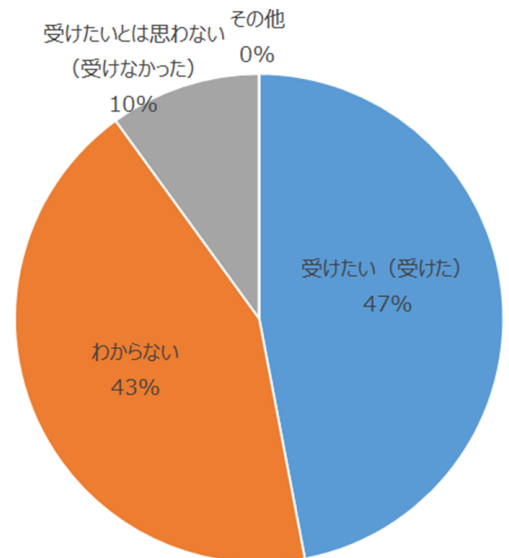
については、乳がん患者の「20%以上 40%未満」、「40%以上 60%未満」が上位を占めました。同時にそれだけ離職者の多さが推測されます。離職理由では「体調がよくなならない」や「後遺症が残って」というご自身の問題や、有給休暇の限界や職場の事情で辞めざるをえなくなるのではと半数以上の方が考えていました。

## 3、乳房再建について

■「乳房再建」という言葉自体は、医療従事者ですのご存知の方がほとんどでした。

■乳房再建の治療法で最も認知度が高かったのは「皮弁法」で7割、「自家脂肪注入法」56%、「乳房インプラント」が53%と続きました。一般的にはシリコンバックを挿入するインプラント法が最も認知度が高いのではと想定していましたが、“インプラント”という専門用語があまり知られていなかった可能性も考えられるかもしれません。

■自分が乳房を全摘出したら再建術を「受けたい」という人は47%、「わからない」という人が43%でした。経験者では87%が「受けなかった」と回答していますが経験者のほとんどは全摘出ではなく、受けなかった理由では「当時はあまり行われていなかった」といった時代背景や「異物を入れることに抵抗があった」という人もいました。最新の治療では、自家脂肪を注入する治療が進歩してきており、“異物感”という課題は今後解消されてくるものと思われます。



■日本で乳房再建している人は全摘出した人の15%とあまり普及していないのが現状に対し、その理由として考えられることで多かったのは「経済的な負担」で78%、「再発の不安のほう大きい」62%が続きました。しかし、インプラントによる乳房再建は、2014年より保険適用となり経済的負担が軽くなりました。このことについては7割が「知らなかった」との回答でした。

■乳房再建の必要性については、「本人が必要と感じるなら検討すべき」が68%と本人次第とする人が最多で、「必要ない」という人は0%でした。

## 【テーマの背景】

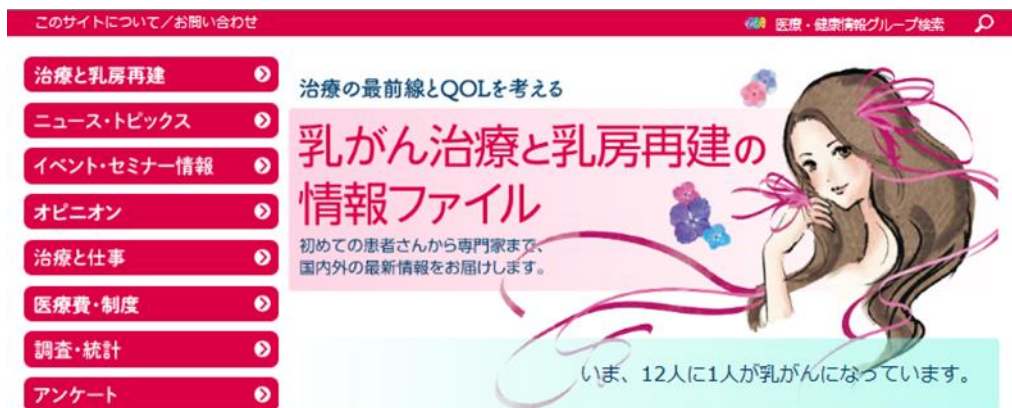
先日、厚生労働省は、がん患者などが治療と仕事を両立できるよう支援する企業向けガイドライン(指針)\*を公表しました。ガイドラインでは、がん、脳卒中、糖尿病など、長期療養を必要とする疾患について、企業側が適切な就業上の措置や治療に対する配慮を行い、治療と職業生活が両立できるよう具体的な施策を示しています。

このような動きは、通院が必要になるような病気になるケースが働き盛り世代にも多くみられ、職場の理解不足で通院継続が困難になったり、患者側が治療を早期に諦め治療中断となり重症化するケースが後を絶たないことも背景にあります。

\*厚生省「事業場における治療と職業生活の両立支援のためのガイドライン」

## 【乳がん治療と乳房再建の情報ファイル】 <http://nyugan-file.jp/>

当サイトは、乳がん患者さんと患者さんを支える医療スタッフに向けて、国内外の乳がん治療と乳房再建に関する的確な情報をお届けすることを目的とした情報サイトです。



### ■乳がん治療について

現在、医療の進歩により、治療の選択肢が増え、生存率が上がり、「治る病気」と言われています。情報を正しい知識や情報が、安心とQOLの向上につながるように本サイトでは国内外の情報を提供いたします。

### ■乳房再建について

また、乳房再建は、失った胸の膨らみを取り戻す選択肢です。乳がんの治療のゴールが、がんが治って終わりだけではなく「再建してもとどおり」がゴールの1つになることで、胸を失って悲しむ女性が減るのではないかと考え、当サイトでは乳房再建に関する情報も多く取り扱います。

<詳細はこちらをご覧ください>

乳がん治療と乳房再建の情報ファイル：<http://nyugan-file.jp/>

アンケート調査の詳細：<http://nyugan-file.jp/survey/>

## 【日本医療・健康情報研究所】 <http://mhlab.jp/labo/>

医療・健康情報研究所は、医療や健康に関する情報収集・情報発信を効果的に行い、生活者の健康づくりにお役立ていただくとともに、医療や保健指導、予防医学に携わる専門スタッフの皆様に、日々の業務に役立つ情報を提供することを目的に専門スタッフと医療関係者による情報研究機関として2005年1月に設立されました。これらの活動を通じて得られる医療や健康に関する最新の知識や各領域の専門の先生方とのネットワーク、関連業界の企業、健保組合、学会・研究会とのつながりをもとに、医療や健康領域のビジネスで、個々の企業がおかれた状況に応じた実践的で効果的な戦略策定、マーケティングサービスマーケティングサービスを提供しています。

<本件に関するお問い合わせ>

日本医療・健康情報研究所 担当：佐藤晴美、広瀬美深

TEL.03-5521-2881 Fax.03-5521-2883 E-mail. [info@nyugan-file.jp](mailto:info@nyugan-file.jp)